

令和7年度 地域連携推進会議 議事録

日 時 令和7年10月19日（日） 10：00～11：30

開催場所 ほのくにホームA棟

参 加 者 1.H様（地域の方） 2.M様（福祉に知見のある方） 3.I様（ほのくにホーム入居者保護者）
4.Y様（ほのくにホーム入居者） 5.K（管理者） 6.N（サービス管理責任者）
7.S（事務員） 計7名

< 内容 >

挨拶 （管理者）

今年度から義務化された地域連携推進会議が設立された経緯として、ある福祉事業会社で組織的な不祥事が発覚。この背景には閉鎖的になりがちなグループホームの環境があげられ、会議や見学等を通して透明性を高めていけるようにと義務付けられた。初めての地域連携推進会議となるため、なにかと至らぬ部分等あるかもしれないが、ほのくにホームのさらなるサービス向上のため、ご意見いただきたい。

参加者自己紹介

施設紹介（サービス管理責任者） ※パワーポイント使用

障害者グループホームについて

障害者グループホームとは地域の中で家庭的な雰囲気の下、日常生活を送りながら必要な支援を受ける場。グループホームにもいくつか種類があり、住居形態もさまざまである。ほのくにホームが開所したH26年は8事業所だったがR7年は27事業所へ増加。年々増えてきており、全国的にも増加傾向であり大規模化している特徴がある。

ほのくにホームについて

H26年5月に開所。介護サービス包括型の共同住宅タイプ。定員はA棟（男性）5名、B棟（女性）5名で計10名。知的障害、身体障害、精神障害の方が入居され、支援区分は2～5。利用料は家賃、食費、水道光熱費、日用品費として月々71,200円（内10,000円は市の補助金使用）。家賃以外の部分は、年間を通じて使用金額を各個人で精算し返金。利用者様が安心安全に生活できるよう、家族・相談員・医療機関との連携も欠かせない。他にも個別支援計画書の作成、避難訓練の実施、BCP策定、事故・ヒヤリハット報告書の作成、入居者様の権利擁護について委員会の設置・研修を行っている。また入居者とともに地域の盆踊りへ参加、カフェにランチに行くなど、休日は余暇を楽しむ。

令和6年度決算報告（事務員） ※別紙（決算資料）をもとに報告

令和6年度は退去者3名に対し、入居者2名と1年を通じて満床とならず大幅な収入減少となった。支出については建設から11年を迎える修繕が増えたことや物価高騰の影響を受け増加。ほのくにホームとしてはかなり厳しい経営状況となり、ほのくにホームだけで見ると赤字。しかし隣接の同法人通所施設（ほのくに）より運営資金の繰り入れを行い、黒字決算となっている。

ほのくにホーム見学 (サービス管理責任者)

リビングを始め、お風呂や洗面などの共用部、各居室などを見学する。

M様（福祉に知見のある方）

ご家族がホーム内を見学することはあるのか。

I様（入居者保護者）

荷物を運ぶために入る程度。改めて見学する機会やB棟に入るのは初めて。（A棟入居者保護者）

質疑応答

M様（福祉に知見のある方）

- ・入居者様のプライバシー、距離感などについて、なにか対策をしているのか。

→明確な決まりを設けているわけではないが、職員は入居者との距離感には気を付けている。特に男性職員は宿直勤務に入る際に挨拶をする程度で基本的に女性の居室には入らないようにしており、女性棟でなにかあれば設置してあるブザーを鳴らしてもらうことになっている。各個人で話し合いを行う場合は、世話人の勤務している時間に女性職員もしくは複数の職員で対応する。

- ・世話人等の時間外など勤務管理はどのようにになっているのか。

→6:30～10:00 世話人、10:00～15:30 支援員、15:30～20:30 世話人、20:30～宿直という流れがあり交代時に申し送りを行うため、時間外はほとんどない。基本的には勤務者が対応することになるが、緊急時は管理者、サビ管が対応することもある。

- ・令和6年度の退去者3名の退居理由はなにか。

→大きな発作が起き、ご家族が心配され退居された方や他の入居者様や女性職員に対する不満や暴言等が頻回にあり、数年話し合いを行うも他のグループホームへ転居された方など。

- ・入居者同士で恋愛関係となることはあるのか。

→基本的には、ホームに戻ってからは男性棟と女性棟に分かれているため、日常生活では関わる機会はかなり少ない。外出レク等がある場合は、一緒に出掛けたりもするが、恋愛関係というのではなくてもない。

- ・保護者会のような形で、ご家族が定期的に集まるはあるのか。

→あえてみんなで集まるということは特にやっていない。それぞれのご家族が、ホームに戻ってくるときに部屋に入ったり、最近の様子などを話をするくらい。

H様（地域の方）

- ・他施設に通われている入居者様はご自身で出勤されることもあるのか。

今後、一宮中学校区内限定のタクシーサービスを検討している。機会があれば利用してみては。

→基本的には通所施設の送迎を利用する。病院受診や買い物などでは電車等を利用される方もいる。

- ・朝と夜の世話人は同じ人が行っているのか。

→基本的には、朝と夜が同じ世話人になることはない。朝だけ、夕方だけ、この曜日だけ、いつでも大丈夫といわれる方などいろいろと希望があるため、毎月シフトを組んでいる。休日にホームで過ごす方がいる場合は日中にも世話人を配置している。

入居者への質問

- ・ここでの暮らしはどうか。

Y様：楽しいです。

入居者保護者への質問

- ・お子さんは、ここでの暮らしについて自宅でなにか話しているか。

I様：特に何も言っていない。問題なく過ごせているかと思う。

意見・感想

M様（福祉に知見のある方）

- ・ほのくにホームとは、毎年交流する機会がある。障害を持った方が、支援が必要な状況で1人暮らしを行うのは難しいのではないかと思うが希望する方は多いかと思う。こういったグループホームに入居しながら、仕事・作業所へ通い、自立につなげていくのは理想の流れと思う。今回退居された方は入居前には一人暮らししていたとのことで、現在暮らしているグループホームの形というものが、ご本人に合っていたのかもしれない。支援が必要な人という先入観を持たず、まずは何でも体験してみることで気づけることもあるかと思うので、良い支援をされたのだと思う。

挨拶（管理者）

今回いただいた意見等を参考にしながら、入居者の方へよりよい支援を行っていきたい。また地域の方にも受け入れていただける施設を目指していく。この地域連携会議は毎年開催していくことになる。今後とも、よろしくお願ひいたします。